

## 【親子行事から思うこと】

学期末の7月12日には、5年生の親子行事で車椅子、ブラインドウォーク体験、14日には、6年生の親子科学教室で超低温の世界について体験をしました。保護者の方々には、忙しい時期に参加をしていただき、大変ありがとうございました。

5年生の親子行事では、ブラインドウォーク体験をしました。一人がアイマスクをして、一人は支援者になって、一緒に食堂を歩く、食堂から外に出て階段の昇降をするなどに挑戦しました。

階段を下りることはとても恐怖をとまいません。支援者が早く降りるとアイマスクをしている人は腰を引いてしまうほど怖いものです。

支援者はどのように考え、障害のある方々にかかわったらいいのでしょうか。

15年ほど前に養護学校(現在は特別支援学校といいます)に勤務していたころの、中学部の女子生徒のことを思い出しました。

自閉症の女の子で会話をすることはできませんでした。

その学校には小学部1年生から入学していろいろなことを学んできましたので、着替えや集団での基本的な生活はできるようになっていました。

その女の子とコミュニケーションをとる……

コミュニケーションは相互の関係で生まれます。その女の子からの弱いけれど言葉ではない確かな意思表示をどう自分が感じるかが大切なのだと思います。

たとえば、教室での授業を終えて食堂に給食で移動をします。教室を出る時は、食堂に行くことが分かれば、一人で移動をはじめます。途中で困難なことがあると支援者の袖口をもって引っ張ります。より困難(または恐怖心)を感じると腕をとります。そして、その困難度に応じて、腕をとる力の入り方が違います。教室から体育館を通り過ぎたころから、女の子は腕をとります。そして段々と腕をとる力が強くなり、それが最高潮になるところに少し薄暗いエレベーターホールがあります。女の子はその薄暗い空間が苦手なのです。「先生、怖い。何とかしてよ。」そんな気持ちが伝わってきます。「○○ちゃん、平気だよ」と声をかけながら、エレベーターホールから最も遠い位置の廊下の壁際を女の子と歩いて食堂に向かったことを思い出します。

そして、音楽の時にギターを弾くと嬉しそうに手拍子をしながら体を左右に振るようにしていたことも懐かしい思い出です。

障害のある、なしではなく、相手とコミュニケーションをとるとき、お互いにそれを感じ取る気持ちが大切なのかもしれません。



5年親子行事  
(ブラインドウォーク)

## 【いよいよ夏休みです】

1学期も今日で終了し、明日からはいよいよ夏休みです。毎日元気よく子どもたちの声が響いていた児童用玄関も明日からはひっそりとした空間になってしまいます。

今まで学校に響いていた子どもたちの声が消えると、つくづく子どもあつての学校であることを実感します。

私たち教職員にとっては、研修等が多い時期ではありますが、それらの研修を通して、あらためて日々の指導や長尾小の教育について考える機会を一人一人が持っていきたいと考えています。



静まりかえった児童用玄関

夏休みは、児童のみなさんについては、暑さに対する体調管理と1学期の復習や課題への挑戦、体力の向上等いろいろありますが、自分に合った目標を決めて生活リズムを崩さないようにしていくことが大切です。

今日の終業式では、夏休みを前にしっかりと目標を決めて毎日こつこつ努力をすることについて話をしました。

そして、私は具体的には

仕事をがんばることに加えて

- 1 読書をする
- 2 毎日トレーニングをする(ジョギング、弓道など)

の2点を目標にして取り組むことを伝えました。夏休み終了後には、子どもたちにしっかりとした報告ができるように頑張りたいと思います。

各家庭でも、子どもさんと具体的な目標を確認し、継続して取り組めるように日々励ましていってください。

最後に、長尾小学校の児童のみなさんが夏休みを満喫し、2学期また元気な笑顔で登校してくる姿を楽しみにしています。

そのためにも、交通事故や水難事故等に遭わないように「夏休みのすごしかたについて」をまもって生活できるように各家庭での指導もよろしくお願いいたします。



7月朝礼での弓道の様子  
(着物を脱ぐ動作のみ)

## 【岡石えみ子先生が退任いたします】

2年1組の武井亜矢子先生が病気のため休んでおりましたが、7月26日に復帰いたします。

武井先生に代わってお世話になっておりました岡石えみ子先生が退任することになりました。